

北海道大学では、「北海道大学プロフェッサー・ビジット」や「ひらめき☆ときめきサイエンス」などのアウトリーチ活動を通して、所属教員が行っている最先端の研究を、高校生のみなさんにわかりやすくご紹介しています。

北海道大学オープンコースウェア[※]では、これらの活動をより多くの方にご覧頂くため、上記プログラムのいくつかを映像で収録、編集し、インターネット上で紹介しています。ブラウザでの閲覧のほか、Podcastでもご利用いただけますので、ぜひご覧ください。

※オープンコースウェアは、大学等で行っている講義の資料等をインターネット上で公開する取り組みです。北海道大学では2006年にOCWサイトを公開し、札幌農学校時代から蓄えてきた「知」の一旦をご紹介しています。

Address

北海道大学オープンコースウェア

<http://ocw.hokudai.ac.jp>

TEL/FAX

011-706-3555

Mail

contact@ocw.hokudai.ac.jp

北海道大学 情報基盤センター南館

〒060-0811 札幌市北区北11条西5丁目

Hokkaido University OpenCourseWare

ひらめき☆ときめきサイエンス

Hirameki * Tokimeki Science

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」は、大学で行っている最先端の研究を、見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

サケは海からの贈り物

帰山 雅秀、矢部 衛、工藤 秀明、清水 宗敬（水産科学研究院）

サケは川で生まれて海に降り、大海原でエサをたくさん食べて、体が十分に大きくなると生まれた川に戻って産卵し、子孫を残してその一生を終えます。川をさかのぼって産卵するとき、サケはクマやワシなどの陸上動物に食べられたり、死体が分解することで、海の豊富な栄養素や物質を陸域に運びます。まさに、サケは海からの贈り物です。皆さん、自然の中でのサケの役割を学び、そして、そんなサケの様子を道南のユーラップ川に行つて観察してみませんか。

北海道大学プロフェッサー・ビジット

Professor Visit

北海道大学が擁する、世界の第一線で活躍する教員が、最新の研究成果に基づいて、全国各地の高校生を対象に講義を行いました。2007年度は計28校、7,540名、2008年度は計26校、約4,700名が参加しました。

※北海道大学プロフェッサー・ビジットは、北海道大学と朝日新聞社との提携・協力による、「環境」をテーマとした共同事業「ポプラプロジェクト」の一環として開催しています。

宇宙の氷天体

香内 晃
(低温科学研究所)

宇宙には、どんなところにどのような氷があり、それらは惑星や彗星などの形成とどのようなかわりをもっていたのだろうか？ 暗黒星雲にあった氷微粒子が集まって太陽系の惑星がつくられていった物語をひもといてみよう。

ごみと循環型社会

吉田 文和
(公共政策学連携研究部)

ペットボトルや家電製品がリサイクルされアジア各国に輸出されています。日本は世界に先がけ循環型社会という制度を作っているが、本当に環境に優しい結果を生んでいるのか。この問題を世界の視点から考えてみます。

惑星オーロラから宇宙環境を探る

渡部 重十
(理学研究院)

地球のオーロラは大気中の酸素や窒素が出す固有の色をしています。木星などにもオーロラが存在しますが、その光の色は地球と異なります。オーロラを観測することにより、その星の大気と宇宙環境を知ることができます。

捕鯨問題と国際法

児矢野 マリ
(法学研究科)

捕鯨をめぐる、日本は欧米諸国や環境保護団体から批判されています。この問題を、国際法の観点から考えてみよう。鯨の保護か、海洋生物資源の持続可能な利用か—多面的な国際社会での「環境保護」を巡る複雑な現実が見えてきます。

北海道大学
児矢野 マリ 教授

捕鯨問題と国際法
—持続可能な漁業か、クジラの保護か—

北海道大学大学院法学研究科
児矢野 マリ

授業の内容

- はじめに
- 捕鯨問題の背景:クジラの特徴、捕鯨の歴史
- 捕鯨に関する国際的な法的枠組み
- 国際捕鯨取締条約に基づく管理
- 捕鯨問題をめぐる見解の対立
- 国際法上、捕鯨は許されるのか?
- おわりに

国際法とは何か?

• 民法と法

北海道大学
香内 晃 教授

宇宙の氷天体

北海道大学
吉田 文和 教授

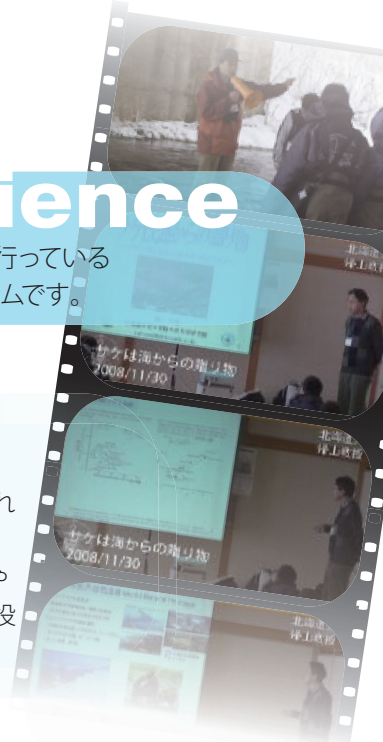
ごみと循環型社会

北海道大学
渡部 重十 教授

惑星オーロラから宇宙環境を探る

北海道大学
児矢野 マリ 教授

捕鯨問題と国際法



北海道大学
児矢野 マリ 教授

捕鯨問題と国際法